

シリーズ企画

オリンピックと屋内全面禁煙法・条例(その33)

- ・受動喫煙防止法、国会へ上程できず
- ・都議会は条例成立の見込み
- ・日医、イベントや署名に全力投球

北九州市医師会広報委員会委員
産業医科大学産業生態科学研究所 大和 浩
健康開発科学研究室 教授

①タバコマナーの自民議員が抵抗

官公庁や一般の職場だけでなく、レストランや居酒屋も禁煙化する法規制が2016年1月から政府内で検討されましたが、結局、今国会に上程できなくなったことが5月末に以下のように多くのメディアで取り上げられました。

「塩崎恭久厚生労働大臣は飲食店の禁煙化に向けて厚生労働部会に出席するなどして理解を求

め、妥協案を模索したが、自民党の抵抗により、国会に上程できず、秋の臨時国会に先送り」ということが分かります。共産党などの野党、そして、与党である公明党もレストラン等の禁煙化には賛成していましたが、最大与党の理解が得られなかったわけです。

自民党内には約200人が所属し、タバコ産業を支援する「たばこ議員連盟」があります。今年3月の総会には今回の法律案に大反対した野田毅議員

や「受動喫煙被害が嫌なら、がん患者は働かなくて良い」と発言した大西英男議員ら61人が参加していました。その他、5月号で紹介したようにくわえタバコで「法案があがってきても通さない」と発言した石破茂議員、メビウスを吸いながら「私は(衆議院)議長ですから、この話題には触れません」と大島理森議員。そして、**図1**の「たばこ大好き人間」の竹下亘議員をはじめとした実力者が厚労省案を骨抜きにする対案を出してきたわけです。

- ・受動喫煙対策法案「今国会提出へ努力」 塩崎厚労相
<http://www.asahi.com/articles/ASK663D6LK66ULBJ001.html>
- ・受動喫煙対策、自民案に厚労相が歩み寄り示す
<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170515-00000079-asahi-pol>
- ・塩崎厚労相、異例の部会出席へ…受動喫煙対策
<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170513-00050028-yom-pol>
- ・受動喫煙対策、法案提出先送り 飲食店線引きめぐり厚労省と自民が決裂
<http://www.sankei.com/politics/news/170606/pl1706060010-n1.html>
- ・「おもてなし」はどこへ? 受動喫煙対策法案の今国会提出を断念、自民党の強烈な抵抗により
http://www.excite.co.jp/News/it_g/20170606/Buzzap_43129.html
- ・受動喫煙対策、法案提出先送りへ 自民、都議選前を回避
<http://www.asahi.com/articles/ASK655WF5K65UTFK00Q.html>
- ・厚労省と自民党 折り合いつかず「受動喫煙法案」提出先送りか
http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/mplus/news/post_133568
- ・受動喫煙対策法案、秋に先送り
<http://jp.reuters.com/article/idJP2017060501002105>

国会と議員会館では吸い放題であることは6月号で紹介しました。つまり、自民党議員が反対する理由は、自身がタバコを吸うので「官公庁は建物内禁煙」という法律ができると国会で吸えなくなるから、政治献金を受けているJTに忖度しているから、もしくは、その両方です。

世界保健機関（WHO）から「日本の受動喫煙防止対策は世界の最低レベル」と評価されましたが、国民の健康をないがしろにして自分たちの都合で法律案を阻止したのであれば「日本の政治家こそが最低レベル」です。図2にタバコマネーを受け取っている自民党議員たちのリストを掲載します（子どもに無煙環境を推進協議会／日本禁煙学会による調査）。

それ以外に、国会には超党派の「もくもく会」というタバコ産業を応援する45人の組織もありますので、次の選挙の参考にしてください（図3＝20ページ参照）。

②都議会自民も法規制に賛成へ

5月27日、東京都医師会主催の「タバコフリーサミット・東京2017」が開催されました（図4＝同）。Part 1のシンポジウムでは日本医師会で喫煙対策を担当されている今村聡副会長の司会により、都医師会の「熱い男」尾崎治夫会長から「健康寿命の延伸にはタバコ対策とフレイル対策は欠かせない」、厚生労働省健康局健康課の正林督章課長から「昨年出版した『たばこ白書』のエビデンスに基づき法規制を進めたい」、がんを研究する野田哲生先生からは「エビデンスを政策に、そして法律に反映させねばならない。受動喫煙は他者危害」、産婦人科医の宋美玄先生からは「分煙では従業員の受動喫煙が防止できない」、受動喫煙で肺がんを発症しStage IVで苦しんでいる患者さんから「国会議員に受動喫煙対策の必要性を理解して欲しい」と発



図1 竹下亘議員の言動

「自民党たばこ議員連盟」役員 (2014/2/20現在、その後公開されていない)	
への6年間の献金額(万円) 合計1,757万円 約35%	
会長	野田 毅 305
顧問	保利耕輔 26 (引退) 麻生太郎 8 高村正彦 5 谷垣禎一 - 町村信孝 (故人) - 伊吹文明 - 衛藤征士郎 50 大島理森 (衆議院議長で離党) 112 額賀福志郎 20
副会長	石破 茂 60 石原伸晃 70 山口俊一 95 岸田文雄 97 坂本剛二 70 (落選) 塩谷 立 - 高市早苗 30 田中和徳 - 金田勝年 70 宮澤光寛 50 江渡聡徳 176 西川公也 70 宮沢洋一 -
幹事長	山田俊男 215
幹事長代理	金子莉之 122 長島忠美 60
幹事	竹下亘 21 谷 公一 - 大塚高司 - 塚田一郎 20 中川雅治 5
事務局長	坂本哲志 50

図2 自民党議員とタバコマネー（数字は金額:万円）

言が続きました。

Part 2では小池百合子都知事が登壇。「喫煙による死者は13万人」「受動喫煙で非喫煙者の肺がんリスク1.3倍、超過死亡1.5万人」「日本の対策は最低レベル」でスピーチが始まりました。しっかりと情報収集をされていることが分かります。続いて、

平成28年2月17日現在

自民党	愛知12	青山 周平		自民党	愛知5	神田 憲次		自民党	北海道4	中村 裕之	
自民党	大分1	穴見 陽一		おおさか	大阪8	木下 智彦		公明党	比例九州	濱地 雅一	
自民党	愛知3	池田 佳隆		自民党	東京20	木原 誠二		自民党	香川1	平井 卓也	
維新	長野3	井出 庸生		自民党	愛知4	工藤 彰三		自民党	神奈川12	星野 剛士	
自民党	福岡1	井上 貴博		自民党	愛知1	熊田 裕通	事務局長	自民党	北海道9	堀井 学	
おおさか	大阪1	井上 英孝		自民党	長野1	小松 裕		無所属	兵庫11	松本 剛明	
民主党	埼玉5	枝野 幸男		民主党	山形2	近藤 洋介	顧問	自民党	東京7	松本 文明	
おおさか	大阪18	遠藤 敬	副会長	改革	埼玉14	鈴木 義弘		自民党	埼玉14	三ツ林 裕巳	医師
	青森3	大島 理森	名誉会長	民主党	滋賀2	田島 一成		自民党	秋田3	御法川 信英	
自民党	大阪8	大塚 高司		自民党	京都4	田中 英之		自民党	大阪13	宗清 皇一	
自民党	香川3	大野 敬太郎		自民党	大阪19	谷川 とむ		改革	秋田3	村岡 敏英	
自民党	大阪17	岡下 昌平		自民党	奈良4	田野瀬 太道		自民党	愛知11	八木 哲也	会長
改革	福島4	小熊 慎司		自民党	東京2	辻 清人		自民党	徳島2	山口 俊一	顧問
自民党	神奈川3	小此木 八郎		自民党	青森1	津島 淳	幹事長	公明党	比例九州	吉田 宣弘	
自民党	宮城3	勝沼 栄明		自民党	広島4	中川 俊直		民主党	静岡6	渡辺 周	

図3 もくもく会名簿 45人

「公約に入れていることですからやります」「ホストシティとして恥ずかしくない対策」「子どもを守る条例」を目指していることが宣言されました。内容もですが、話し方がお上手です(図5)。前から2列目で聴くことができラッキーでした。

続いて、都議会公明党の野上純子議員から「公明党は以前からこの問題を取り上げてきた」、都民ファーストの会の木村基成議員から「働く人を守る条例を」と続けました。そして、最後の都自民党のさきやま知尚政調会長からの発言にはビックリしました。2014年8月、舛添要一前都知事が「都議会の皆さんの協力も得て、議会できちんと条例を通せばできますから。これ、やりたいと思います」と発言した時にはあれほど反対したにもかかわらず(2014年11月号参照)、今、この問題に異を唱えることは不利と判断したのでしょうか「自民党も協力します。すでに都議会の自民党控え室から灰皿を撤去しました」と驚きのコメント。つまり、7月の都議選後はどの会派も「東京都条例」の成立に賛成することになります。少なくとも首都で受動喫煙防止条例が成立すれば、会場が設置される6道県でも同様の議論が始まるでしょうし、そうなれば国も動かざるを得ないでしょう。

今国会での法規制の審議は見送りにはなりませんが、自民党の骨抜き対案がゴリ押しされなかったこと、国会自民党との対立軸として東京都条例



図4 Part1のシンポジウム(矢印は筆者の後頭部)



図5 熱弁をふるう小池百合子都知事

が先行して国際標準の法規制を施行する可能性が出てきたことは、一筋の光明と言えます。

③日本医師会主催、世界禁煙デーイベント

5月31日は日本医師会館の小講堂が超満員札止めになるほどの盛会でした。あの自民党の中で禁煙化推進にがんばっておられる山東昭子議員、厚労省の正林督章課長、尾崎治夫都医師会長からの覚悟表明。そして、自見はなこ議員から「1年生議員ですが、医師として頑張ります」と力強いコメントがありました。私の20分のプレゼンはホームページにアップしてありますのでご覧ください（図6）。



図6 「小児科医として子どもたちをタバコから守ります」と自見はなこ議員

後半は「なぜ、わが国では受動喫煙防止対策が進まないのか」をテーマにしたシンポジウムでした。尾崎治夫先生から「国会議員は大和先生のレクチャーを受けて勉強するべきだ」とありがたいお言葉をいただきました。今回、法律案は見送りになりましたが、これを機に自民党議員にレクチャーする機会を横倉義武日本医師会会長にお願いしたいと思っています。

④日本医師会の署名活動

4～5月で、法規制を推進する医療関係者VS.飲食店を中心とした反対派による署名合戦が行われました。推進派の3万筆余に対して、反対派は110万筆。タバコ産業から「営業収入が落ちる」と吹き込まれた飲食業の組織票が入ったためです。この結果に危機感を抱いた横倉義武会長から医師会だけでなく、看護協会や薬剤師会とも協同して200～300万筆を目標とした署名活動が始まりました。産業医科大学医師会でも尾辻豊会長名（病院長）で全研究室に署名の協力依頼がありましたし、6月8日の朝日新聞朝刊にも日本医師会の署名の呼びかけ（図7）が載っていました。当初、6



図7 日本医師会の呼びかけ

月下旬が締め切りでしたが、この状況ですから締め切りはきっと延びると思います。日本でも世界標準の屋内禁煙が達成されるように本医師会の皆さん、スタッフや患者さんからも署名を集めて医師会に送りましょう。